

【トラック1】

場所…ヒロイン家

※備考…ヒロインがスマホでシノの動画を見ている

「どうも〜シノです。

え〜どうやらこのアカウントのフォロワーが

10万人を超えたみたいだね。

マゾ雌ちゃんのドスケベな姿が沢山見てもらえているようで

俺も嬉しいです〜」

「まあ別に、フォロワー数とか正直俺には関係ないんで、

これからも俺に虐めてほしいマゾ雌ちゃんたちは気軽に声かけてね」

【トラック2】

場所…シノのマンションの部屋

「いらつしやい。やつと会えたね
待ってたよ。外寒かったよね。

シャワー、浴びてくる？

そこ右に入ったところにあるけど。」

「…はは、そっか。

すぐに俺とエッチなこと出来るように、

俺に抱かれるために、家でちゃんとお準備してきてくれたんだあ♡

それじゃあ期待に応えないとなあ♡

…寝室はこっち。いこっか♡」

※備考…玄関から寝室に移動

※備考…ここから撮影開始

「はーい♡♡

今日は俺の動画を見て

子宮きゅんきゅん疼いちゃったマゾ雌ちゃんが

自分から連絡をくれたので、

どうしようもない淫乱スケベまんこに調教していきたいと思いまゝす♡♡

ほら、ぴーす♡♡」

「自分でできないの？

じゃあ俺が腕持ってあげるから、

ほら、手チョキの形にして？」

「あはは、そうそう♡

これから俺に恥ずかしいこと沢山されるのに

ダブルピースしちゃってかわいいね♡♡」

「ふは、脈はっや♡♡…緊張してる？

うぶでかわいいね♡」

「でもその割には脱がせやすそうな洋服と
ドスケベな下着付けてきてくれてるんだ？♡♡」

「オナホまんこにされるために、

わざわざここまで来てくれたんだもんね♡♡

あは、えっろ♡♡その期待には応えてあげないと♡♡」

※備考…胸をもみながら首筋にキス

「ん…♡ちゅっ♡あゝ♡♡

おっぱいおつきいしすっごい柔らか♡♡♡

ふは、まだブラの上から揉みしだいてるだけなのに
えっちな声でちゃってるね♡」

「ああ、ちゃんとみんなにも

えっちな下着に包まれた、君のおっぱい

ちゃんと見てもらおうね♡♡

寄せたり…持ち上げたり…」

「俺のフロロワ―〇万人に

君のこの綺麗なおっぱい見られちゃうの
恥ずかしいね♡」

「はは、顔真っ赤…美味しそ…♡♡

…ちゅう…っ」

「ね、こっち向いて？♡♡

ん…ちゅう…♡♡」

「っ、あは、っ♡♡♡

上あご舌でぐりぐりされただけで

気持ちよくなっちゃったんだ？♡♡♡

しょうがないから…もっとしてあげようか♡」

「ふふ、さっきから薄々感じてたけど…

君、こういうこと全然慣れてないでしょう？♡」

「キスだけで身体びくびくさせて、
息上がっちゃってる♡♡

かーわい…んちゅう…♡」

「あーあ、もう乳首ビンビンなんだけど♡♡ざっこ♡♡
キスだけでこんな雑魚乳首勃起させて

今まで触られて感じたことないなんて信じられないなあ♡♡
雑魚乳首はちゃんと躰直してあげないと♡」

「おら、乳首反省しろ♡」

「っはは、雑魚♡♡ザッコ♡

乳首すこし強い力で

ぴんって雑に弾かれただけで気持ちよくなっちゃんだ？

こんな雑魚乳首でごめんなさいって

見てくれてる人にちゃんと謝らないと。」

「ああ、ついでに自己紹介もしよっか♡♡

俺の動画見てくれてる人にご挨拶しないとだもんね？」

「…声震えてなんて言ってるのか分かんねえな。

ほら、もう一回…

それに、ごめんなさいだけじゃわからないよ」

「はあ…しょうがないな。

『乳首弾かれただけでえっちな声出してごめんなさい、
シノさんに身体全部開発してもらって

ドスケベなマゾ雌になるためにきました。

えっちなところたくさん見てください』でしょう？」

「ほら、乳首ぴんっぴんってたくさん弾いてあげるから、
ちゃんと言ーえ♡」

「はは、上出来♡♡

今から日が暮れるまでずっと調教して

君のこと下品なオナホまんこに墮としてあげるからね♡♡」

「じゃあ、いい子の君には
ご褒美にやさしく乳首カリカリしてあげようね♡♡」

「ブラだけ外して…捲つてたシャツは戻そうか。」

「っはは、ねえ見て？

勃起乳首、浮き出ちゃって

シャツの上からでもぷっくり主張してる♡」

「敏感になってるここ、

シャツ越しにカリカリされたら気持ちいいだろうな…♡

だつて君、そう言うの好きでしょう？

期待してる顔してる♡」

「…凶星？顔真っ赤になっちゃった♡

ほら見て。俺の指、もうすぐ君の乳首に当たっちゃうね？

…おら、雑魚乳首、シャツの上から爪先でかり♡♡

かり♡♡かりかり♡♡」

「布越しにやさしくカリカリされるのきもちいきもちいね♡♡

ね、さつきからずっと腰へこへこしてるのバレてるよ♡

身体アクメ準備始めちゃってるね♡♡」

「おら、乳首弾かれて…

引っ張られてカリカリされて

初めての乳首アクメキめろ♡♡

…イけ♡♡イけ♡♡」

※備考…乳首を弾いたり引っ掛かれる

「ほら、いくいくいくいく♡♡♡♡

乳首きもちいきもちい♡♡」

※備考…ヒロイン絶頂

「…あっは♡♡♡ざっ♡♡♡」

「乳首ビンタされただけで

くそ雑魚敗北アクメキめちやったんだ♡♡♡

よつわ♡♡君が乳首で雑魚アクメキめてるところ

ちゃんと動画に撮れたから

みんなに見られちゃうね？♡♡

はずかしいね♡♡」

「ん？だーめ♡♡

一回アクメキめたくらいじゃあ辞めないよ♡

ちゃんと雑魚乳首で連続アクメキめられるように

癖付けないとでしょう？」

「ほら、今度はカリカリだけでアクメキめて

本物の雑魚乳首になろうね♡♡

ほら、イクけ♡♡イクけ♡♡」

「あつは♡♡ずっと気持ちいのとまらないねえ♡♡」

「はい♡♡みなさん♡♡これがクソ雑魚乳首です♡♡」

「こうやってちよつとぴんっ♡♡って弾いてあげるだけで

クソ雑魚乳首はアクメ、キめちやいまーす♡♡♡♡

ほらぴんっ♡♡ぴんっ♡♡」

「おい、下品な声で喘いでるだけじゃなくて、

ちゃんとみんなに宣言しようね♡♡

クソ雑魚乳首負けました、って♡♡」

「口ごもってないで…自分の口でちゃんと言え♡

おら♡…あつははは♡♡

ほんと雑魚でかいー…♡

乳首ちゃんと気持ちよくなれてえらいね♡♡

次はこっち♡♡おら、クリちんぽ見せろ♡♡」

「ほら、腰浮かせて？いらぬ布は全部とっちゃおうね♡
よし…できた♡それじゃあ、御開帳♡♡」

「うわ、下着びっしやびしや♡♡

まあでも乳首であれだけアクメキめてたら
こんなになっちゃうかあ♡」

「…恥ずかしそうな顔してるけど、

君自分でこのグレーのえっちな下着履いてきたんでしょ？
こうやって色変わっちゃったこと

俺に指摘されたくて、わざと？♡♡スケベだね♡♡」

「これ、もう濡れすぎて下着の役割果たしてないし、

ぬぎぬぎしましうね♡♡

おら、片方ずつ足抜いて？そう、えらい♡」

「はい♡♡おまんこ御開帳♡♡

やっぱりたくさんアクメキめたから
ぐっちゃぐちやになってんね♡♡」

「えっろい匂いすっご♡♡

じゃあこの糸引いてるドスケベまんこ、
ちゃんと調教してやろうな♡♡」

「まずはこのクリちんぽ♡♡お掃除しようね♡♡」

「じゃーん。みんな、これなんのブラシだと思う？

ふふ、これはね、クリちんぽ専用のブラシだよ♡♡

ほら、これ、見えるかな…

このブラシ、普通の歯ブラシよりも

細い毛がびっしり生えてるでしょう？♡

クリちんぽをより雑魚にするために作られたブラシなんだ♡♡」

「ごしごし磨いても痛くないように作られてるんだよね。

まあ痛くないってだけで暴力的なまでに気持ちいいんだけど♡♡」

「ほら、自分でちゃんとおまんこ広げて？♡♡

ちゃんとくぱあって…♡♡

…おら、何回も言わせんな♡♡」

「そう、えらいね♡♡

ね、君のクリちんぽ、もうバキバキに勃起してない？♡」

「まだ何も触られてないのにこんなにしちやって♡

期待されてるみたいで少し気分いいな♡♡

沢山ごしゅごしゅ虐めてあげる♡♡」

「ん…手すっごい震えてるけど

クリちんぽごしごしされるの怖い？

はは、まあそうだよね♡♡

こんな毛がびっしり生えたブラシで

君のその勃起クリちんぽ磨かれたら

直ぐに頭おかしくなるようなアクメキめちやうもんね？♡♡」

「まあそんなこと俺には関係ないしなあ。

はーい♡♡クリちんぽきれいきれいしましうね♡♡

汚れ溜まってますからね♡♡

ほら、ごしごし♡♡ごしごし♡♡

先っぽも側面もちゃんとごしごししようね♡♡」

「はい、きれいきれい♡♡はーい♡♡

そしたらこのクリちんぽもきれいしましうね♡♡

ほら、ちんぽ自分で皮剥いて？ちゃんと出して？

うん、そうそう♡♡そのままね。」

「…おら、じゃあちんぽ磨くからなっ♡♡

ちんぽ逃げんなよ？逃げんなよ？

はい、ごしごし♡♡♡♡♡♡」

「クリじゃなくておちんぽ♡♡

おちんぽごしごし気持ちいいね♡♡

おい、なに手放してるの？

そのままって言ったでしょ。

ちゃんと皮剥いて、くりちんぽ見せろ♡♡

ほくら、グダグダするな♡♡」

「…そうそう。えらいですね♡♡
いい子のおちんぽ、ごしごし♡♡ごしごし♡♡」

「ちょっと、許可もなく勝手に潮吹いて
部屋汚してんじゃねえよ♡♡」

「嫉のなっていない雑魚雌ちゃんには
お仕置が必要ですね♡♡」

おら、ちんぽの根元ごしゅごしゅ磨いてやろうな♡♡」

「ざっ♡♡♡♡ちんぽ雑魚すぎ♡♡♡♡
ちんぽごしごしされて

たくさんびくびくアクメめちゃう
雑魚雌になっちゃったね♡♡♡♡

ちんぽきもちいの止まんないね♡♡あゝ可愛いそ♡♡」

「根元も、裏筋も、先っぽも…

余すところなくぜゝんぶごしごし丁寧に磨いて
ぴかぴかなおちんぽにしましょうね♡♡」

「っはは、キツそ…♡♡目に涙たまつて…
うるうるってしててかあわい♡♡」

「気持ちよくて死にそうなのに
ちゃんと手で皮剥いたままくばあ出来ててえらいえらい♡
ぴかぴかおちんぽ目指してもう少し頑張ろうね♡♡」

「っはは、下品なメス声やつば♡♡
はー、かわい♡♡どれどれ…良く見せて？」

「うんおちんぽ真っ赤に勃起してぷっくり綺麗になりましたね♡♡
お掃除ちゃんとできた敏感おちんぽにご褒美あげないと♡♡
今度は指でもっと雑魚アクメきめようか♡♡」

「ふふ、君がえっちなおつゆ、
どぶどぶって沢山垂らしてくれたから…
ローションとか必要なかったね♡♡」

「やだやだって言ってるけど、
おちんぽはまだまだ気持ちいいの欲しいって、
ふるふる震えてるよ？♡

ブラシでごしごしされて潮吹くまでアクメキめたのに
まだ気持ちいいの欲しいんだ？
クソ雑魚クリちんぽのくせに欲張りだね♡♡」

「俺そういう女の子大好き♡♡

たあっぷりお潮噴きまくって
気絶するまでアクメキめさせてあげようね♡♡
ほら、ちゃんとくばあして？♡」

「お掃除できてえらいえらい♡♡

人差し指と親指でゆっくり、
いいこいいこしてあげようね♡♡
ほら、いい子♡♡いい子♡♡クリちんぽよしよし♡♡」

「…ん？これはご褒美に

クリちんぽちよつと触ってるだけだよ♡♡
扱くっていうのは…

こうやってクリちんぽしっかり掴んで、
上下にゴシゴシ♡♡って扱くことを言うんだよ♡♡」

「ふふ、おちんぽごしごしきもちいね♡♡

クリちんぽからぴゅっぴゅって精子でちやうかな♡♡
ぴゅっぴゅっぴゅ♡♡ちよつと、足バタバタしないの♡♡
もー…足動かせないように俺の足で抑えてあげよつか♡♡
君が自分でできないからやってあげてるんだよ。
ありがとうございます、は？」

「っはは、必死でかあわい♡♡
ちゃんとお礼言えていい子だね♡♡」

「ん？？またアクメ？何？何が出るの？
…潮…？潮じゃないでしょう。
おちんぽから精子だします、でしょう♡」

「っははは♡♡おら、出せ♡♡
だーせ♡♡おちんぽから精子出しておちんぽアクメキメろ♡♡」

「はゝい♡♡クリちんぽお精子出せましたねゝゝ♡♡♡
あゝあ♡♡

もう君のクリちんぽ、
くそ雑魚以下になっちゃいましたゝ♡♡
よかったねゝ♡♡」

「クリちんぽぶっ壊したところで、
次はこっち虐めてあげないと♡♡あつは♡♡♡
おまんこに指入れられただけで
腰のびくびく止まらなくなっちゃったゝ♡♡
ざっこいなゝ♡♡：はいはい♡♡そんなちゅうちゅう吸い付いてこなくても触
つてあげましょうね♡♡♡」

「君の弱いところは…
あーあ、もう見つかったちゃった♡♡
おら、のスポとんとん♡♡とんとんゝ♡♡」

「あゝ身体がくぐくしてきてる♡♡
指でとんとんしてるだけなのに…
ん？またアクメ？んゝだめ♡」

「っはは♡♡餌取り上げられた犬みたいな顔してる♡
あーあ、せっかくおまんこで
気持ちよくくアクメきめられそうだったのに
中途半端なところでお預け食らって辛いねえ♡♡」

「んゝ何？聞こえない。
してほしいことがあるなら、
ちゃんと自分でおねだりしないとだよなあ♡♡
：ほら、このカメラの前でちゃんとお願いしないと
イかせてあげないよ？♡♡」

「…っはは♡♡上出来♡♡

上手におねだりできたね♡♡

ほら、じゃあここ、

俺の指でとんとん、とんとんってしてあげるから、
びゅっびゅっつてアクメきーめろ♡♡

おら、イケ♡♡イーけっ♡♡」

「あは、かわいすぎ♡♡♡♡♡

のスポとんとんでお潮ぴゅーしちやう雑魚まんこ、
とつてもかわいいよ♡♡はやくこの雑魚雌スイッチ、
つよつよおちんぽでぶっ壊してあげたいな♡」

【トラック3】

場所…シノのマンションの部屋

「はあはあってワンちゃんみたいに息しちゃって…♡♡
たくさんアクメして疲れちゃった？

まだまだこれからなのに、なぐにへばってんの♡」

「っはは、見て♡♡

君がドスケベなせいで俺のちんぽ、こんなに大きくなっちゃった♡
ね、どう？君がいつもおかずにしてるおちんぽだよ♡」

「ふふ、そんな怖がらなくても

すぐにぶち込んだりしないって♡♡

まずは君の雑魚雌クリちんぽに

本物の雄ちんぽわからせてあげようね♡」

※備考…素股

「君が沢山おつゆ漏らしてるからぬるぬるですっごい滑りいい…♡

カリの部分で、クリちんぽごりごり磨いてあげようね…♡

は、あ…っ♡ね、もっとふともぎゆうってしめろ♡

そ、じょーず♡♡」

「こーやって腰動かすたびに、どんどん滑りよくなってるのわかる？

おちんぽ気持ちよくていっぱい漏らしちゃってるのバレバレ♡

っは…きもち…はは、ぬるぬるだから君のまんこに

にゆるんってすぐに入っちゃいそう♡♡」

「ん…？ははっ、入らないって？♡

さっきたあくさん解した君のおまんこ、

俺のちんぽ欲しい欲しいって

吸い付いてきてるのは僕の気のせい？♡

ちんぽがおまんこずりずり…って擦るたびに

えっちな声出しながらびくびくさせてるの、

バレてるよ♡♡」

「ふうん、違うんだ♡♡

じゃあずっとこのままでいいよね♡♡

きゅんきゅんしてる君のナカ無視して、

クリちんぽごりごり潰し続けてあげる♡♡」

「あは、もどかしい？

腰動いちゃってるねえ♡

おちんぽとキスしてるだけじゃ物足りない？

でも、これ、入らないんでしょう？

じゃあ我慢しないと♡」

「ほら、ずりずり♡♡ずりずり♡♡

クリちんぽごりごり♡♡

っは♡君のおまんこと太もも気持ち♡♡」

「っ、はは、どうしたの？♡

自分からそんなに腰動かしちゃって♡」

「ほら、もっとぎゅうって脚閉じて？

…ん？なに？言いたいことがあるなら、ちゃんと言わないとだよね？」

「…ふーん、さっきはこんなの入らないって拒んでたくせに？

今度は挿れてほしいだなんて、

ちよつと虫が良すぎるんじゃない？

ふは…泣いちゃった？

おら、泣いてもこれ、あげないよ？♡

ちゃんと謝って、おねだりしないと。できるでしょ？」

「…よくできました♡

ふふ、雑魚雌まんこ、

俺のつよつよ雄ちんぽでぶっ壊してほしいんだね♡

ちゃんと教えてえらいね♡♡」

「じゃあ君が待ちわびてたちんぽ、

挿れてあげようね。

見て？今からこれ、挿れるんだよ♡」

「この…俺のちんぽで君の弱いところずりずり♡

ってつぶしながら、おちんぽじゃないと届かない

奥の気持ちいいところごちゅごちゅ♡

って押しつぶしてあげよっか♡

クリちんぽも一緒に指でしゅこしゅこ抜いてあげる♡♡」

「あーあ…ここもう大洪水じゃん。

シートまでぐつしよりしみ込んでる♡

俺のちんぽ挿れてほしくてこんなになっちゃったの？えっろ♡

…それじゃあ、君が欲しくてほしくて仕方なかったおちんぽ、挿れるね…♡」

「…っは♡あつつ♡

はは、たくさん焦らしたからかな…

君のおまんこ俺のちんぽぎゅうぎゅう締め付けてきて離さないね♡

そんなに必死になって俺のちんぽに吸い付いて…かわいー♡」

「ゆっくり挿れてるだけなのにえっろい声出してる。勝手に俺のちんぽ感じて気持ちよくなってるんだ、スケベ♡」

「…っは♡こちゅって奥まで入っちゃった♡♡

ほんと雑魚まんこ♡♡」

「彼氏でもない男に組み敷かれて

子宮きゅんきゅんさせちゃうような

ドスケベなマゾ雌まんこ♡♡

きもちいいな♡」

「それじゃあ、おまんこが俺のちんぽ覚えてくれたみたいだし、

もう動いていいよね♡♡

一回抜いて…さっき散々虐められてたのスポ、

カリでしつこく狙ってひっかいてあげようか♡♡」

//SE:適宜律動音

「まずは、ゆっくり、ゆーっくりずりずり♡♡

…なに？嫌？ああそう。」

「ゆっくりずりずりされるの嫌なの？」

君みたいな淫乱マゾ雌に拒否権なんてないけど、
しょうがないな…

ゆっくりが嫌ならはやく、ずりずりしてあげようね♡♡」

「違う？」

そっかーちゃんと言わなかった君が悪いんだから…

Gスポえぐられながら反省しろっ♡♡

おら、ずりずり♡♡ずりずり♡♡

ははっ、声甘々になっちゃった♡

まんこが俺のちんぽにしゃぶりついてくるの、止まらないね。」

「君さ、さっきからずっと痙攣して甘イキしちゃってるだろ。

わかるよ、ずっと締め付けてくるもん。

気持ちいいね♡♡

おちんぽ様にまんこ虐めてもらえてうれしいね。

おら、ちゃんとカメラに向かってお礼言おうね？

…そ、えらいえらい♡♡」

「ああ、そうだごめんごめん。

クリちんぽのこと放っておいちゃった♡♡

ここも一緒に気持ちよくならないとね♡

ぴんぴんって弾いてあげようか」

「あは、ナカぎゅうって締まった♡♡

ってあはは、自分で締めつけたせいで

ナカさらに気持ちよくなっちゃったの？

なんで、って顔してるけど…

馬鹿でかいーね♡♡」

「こうやって、親指と中指でつまんで、

人差し指の爪先でかりかり♡

ってひっかいてやると…♡♡あは♡

腰すっごい跳ねてる。

クリちんぽも気持ちいいね。ふふ、かわいいよ」

「こおら、気持ちいいからって目瞑ってないで、カメラ見なきやダメでしょ？」

おい、聞いている？

のスポごりごりされながらクリちんぽ扱かれてるからって、

無視すんな♡♡

おら、ちゃんとこっち向け♡♡」

「っはは、そう。言うこと聞けてえらーい♡♡

ご褒美に今度はのスポも子宮口も

どっちも気持ちよくさせてあげようね♡

ゆっくりぎりぎりまで引き抜いて…♡

それから、一気に奥まで突いてあげると……♡」

「…っは、たった一回だけなのに

身体ぜんぶ痙攣させちゃうくらい気持ちよかった？♡

君がオホ声上げながらびくびくしてるところエロすぎ♡」

「今回のサムネイルはここにしようかな♡

おら、きもちいのに浸ってるところ悪いけど、

雑魚まんこもう少し頑張ろうね♡」

「もう一回ぎりぎりまで抜いて…」

「っはは、壊れたおもちゃみたいになっちゃった♡

ほら、おちんぽケースががんばれががんばれ♡

ちゃんと俺のちんぽに媚びようね♡」

「あ、またそうやってすぐ目を瞑る♡

君のおまんこにずっぽり入ってるちんぽが見えないでしょ？

こうやって奥をぐりぐり…って虐めてあげてるんだから、

ちゃんと目に焼き付けな。」

「俺がクリちんぽの裏側と奥の子宮口と、

クリちんぽ全部気持ちよくしてあげるなんて特別だよ？

よくわからない言葉ばかり発してないで、

ちゃんと俺のちんぽにお礼言おうね♡」

「ふは、必死すぎ♡どういたしまして。
ほら、もっと気持ちよくなっていいよ。
しこしこしながら、突いてあげる…♡」

「あー…さっきから突くたびに
おまんこの具合よくなってる…
ほらまた今もおまんこぎゅうううう♡
って締め付けたでしょ。このスケベまんこ♡♡」

「はは、君のナカの具合が良すぎて、
俺のちんぽすっごい大きくなってる♡
生ハメやっぱ♡…ん？ゴム？つけてないよ♡
うん、いつもはつけてるけどね…今日は…♡
って今更気が付いたの？」

「まあ気持ちよくてそれどころじゃなかったもんね♡♡
ん、なに？何言ってるのかわからねえよ♡
ほら、そんなことよりこちに集中しろ♡♡」

「さっきから子宮口がずっと離れたくない
ってちゅうちゅう吸い付いてきてるけど、
奥が寂しくなっちゃった？♡
しょうがないから、今度はここ、
ぐりぐり…って潰してあげようか」

「ここ、もっと体重掛けて…
あーあ、さっきよりも深いところ入っちゃったね♡
このままゆっくり、ぐりぐり…ぐりぐり…♡
あーあ。女の子が出しちやいけない声出ちゃった♡♡
目ももうとろんってして…
おまんこ壊されちゃったねえ♡♡」

「身体びんって力入ってる♡
アクメきちやうかな？
あゝ…締め付けすぎて、
俺もそろそろ出そう…♡」

「少し、激しくするよ」

「っはーっはー…君のナカに、

俺の精子出すから、このまま君の子宮で受け止めて…♡

…はぁ、はぁっ、出る…っ♡♡」

「…っ、はぁ、っ♡アクメキメた後の君のおまんこ、

すっげ…っ♡僕のちんぽ全然放してくれない…っ♡

精子搾り取るの止まらないね♡

ね、気持ちよかった…っ？

まあ聞くまでもないと思うけど…

って、あれ、気失っちゃった？おーい…♡」

【トラック4】

場所…シノのマンションの部屋

「起きた？気失っちゃってたんだよ」

…ん？君のクソ雑魚クリちんぽ食べてるだけ♡

ここ、ぷりぷりで美味し♡

っはは、すっごい声♡♡

気絶してる時とかわかったけど、

やっぱり起きてる時のほうが反応良くてそそられるな♡

ん…っ♡」

「はは、剥き出しになったクリちんぽ

こうやって口全体で舐めしゃぶられて…

舌でちろちろっててっぺん叩かれるのきもちいねえ♡

まあもうクリちんぽ馬鹿になってるから、

何されても気持ちよくて大変だろうけど♡」

「こおら♡腰引くな♡♡

舐めてもらってるんだから

ちゃんと腰突き出して舐めやすい姿勢取らないとだよね？♡♡

何腰引いて気持ちいいの逃がそうとしてるの？

あ、また腰引いた。」

「言われたこと出来ないなら

お仕置きしないとだよね？

さっきまでいい子で言うこと聞けてたのに、

一回寝たらもう忘れちゃった？雑魚すぎない？」

「…おら、お前のこの真っ赤に腫れてる勃起クリちんぽ

口でじゅぽじゅぽ扱いた後に

奥歯で潰してあげようね♡♡」

「だめじゃないよ♡

これは君が言うこと聞けなかったことへのお仕置きだから♡♡
拒否権なんてないに決まってるじゃん。」

「うーん、早く終わらしたいなら

今度こそちやあんと僕に腰突き出して

舐めやすいようにしようね♡♡」

「君がちやあんと誠意見せてくれれば

僕だって考えるよ♡

ん…♡ちゅうつつ♡♡」

「ん…君のクリちんぽ、ビンビンに勃起してるから扱きやすいな…

ふふ♡♡ん…ちゅう♡

裏筋は舌でくすぐってあげようね♡

っは、がくがくしながら耐えててえらいえらい♡」

「気持ちよくて死にそうで、

腰引きたいのに僕に言われたから腰突き出してるの

無様で健気でかわいいね♡♡

俺が一回イったらもう帰れると思ってた？残念♡」

「そもそも今日一日中えっちするつもりでいたけど、

思ってたよりも君のこと気に入っちゃった♡

明日も休みて言ってたよね？

今日はこのまま泊まっていて、

明日の夜までずっとえっちしようか♡♡」

「こうやってたくさんクリちんぽとおまんこ虐めながら、

生ちんぽでたくさん君のナカの弱いところ突いてあげる…♡

君がどれだけ泣いて嫌がっても、

押さえつけて、ずっと弱いところほじくってあげようね♡」

「ん…？だって君のこと孕ませる気にいるから♡

君のこの白くてうっすいお腹に、

何回も、何回も俺のザーメンどくどく注いであげる♡♡」

「ふは、クリちんぽびくんって跳ねた♡♡

おちんぽみたいにわかりやすい反応するようになってきたね♡

えらいえらい♡♡じゅうう♡♡」

「っはは♡やっぱり潰されるのキクよなあ♡

君のクリちんぽ、今日一日で

比べ物にならないくらいドスケベになっちゃったね？

もうこんなに敏感じゃあ、

毎日パンツ履いて歩くだけで、

下着に擦れて気持ちよくなってアクメキメちゃうよ。

あーあ♡人間生活終わっちゃった♡♡」

「ふは、そんな悲しい顔しないで…♡

君はちゃんと俺がおちんぽケースとして大事にしてあげるから♡

毎日俺のおちんぽで気持ちよくなるうね♡♡ん、ちゅう…♡」

「っは、ね、見て。君のおまんこが美味しすぎて、

さつき出したばかりなのにもうこんなになっちゃった♡

はは、見すぎ。俺のおちんぽ見たら気持ちいいの思い出しちゃったの？
顔すっげえエロくなってるよ♡かわいいね♡♡」

「ね、君も早くこれ欲しいみたいだし…

俺ももう我慢できない。

…いいよね？♡

ん…ちゅう…♡れる…♡」

「っは、ん、ちゅう…君の口の中あつまいな…♡

っふは、さつきよりも積極的でかいー♡

そ…俺の舌に…んちゅう…

舌絡めて…？ん、じょーず♡」

「少し褒めただけで、目細めちゃって…

あーあ…雑魚マゾになっちゃった♡

んちゅう…それじゃこのまんま、

チューしながら生ハメしようか♡

ほら、おまんこちゃんとおちんぽ挿れやすいように、

僕の腰に足まわして？」

「は…っ…っ…そう。よくできたね♡

ん、挿れるよ…っ♡」

「っはぁ……♡

君のナカとろつとろできもち♡

今日一日かけて、沢山おまんこほじくったからかなあ？
どこも大分柔らかくなってる♡」

「子宮口もちゅっちゅっておちんぽに吸い付いて、
早くザーメンちょうだいっておねだりしてくるっ♡
そんなに急がなくてもちゃんとあげるから♡…んちゅ♡」

「ああそうだ、今度は乳首もいじめてあげようね♡
ずっと放ったらかしにしてた乳首、
最初よりもビンビンになっちゃってるな♡
ほら、両手で弄ってあげる」

「っふ……♡♡♡

やば、ビンビン勃起乳首触ってあげると
おまんこきゅんきゅん締まった♡♡
乳首、こうやって押しつぶされるの好き？
あは♡おまんこから我慢汁垂れてる♡
胸とおまんこ一緒に虐められるの気持ちいいね♡」

「あく必死にシーツ掴んでるのかわいい♡
気持ちよすぎて怖くなっちゃった？
あは、そっか♡大丈夫、安心して♡
君のことちゃんとして壊してあげるから♡」

「っ、君のナカ、
俺のザーメンとえっちなおつゆが混ざり合ってて、
ぐちよぐちよですごい滑りいい…♡
っは…きもちー…♡

はは、君もずっと甘イキしてるね♡
君のその快樂に負けてる顔
すっげえそそられる…♡かわいい♡」

「あ、そうだ：せっかくだしもつと近くで撮影させて？
ネットにはアップしないよ。

僕が楽しむだけ♡

君のこの蕩けた顔とか：

俺のザーメンと君の我慢汁が合わさって

泡立ってる結合部とか：

ぜくンぶ残しておきたいから♡♡」

「うるさい。君がやだやだ言ったところで
雑魚雌の言うことなんか聞かないに決まってるでしょ？♡」

「とろとろで気持ちよさそーなおまんこから、

ぶちゅぶちゅ下品な音立てて

俺のちんぽが出たり入ったりするところ、

写しましょうね♡」

「あつは♡嫌なんだ♡

必死に首を振ってるの可愛い♡

もつと虐めて：俺だけのものにしたいくなっちゃうなあ。

君の好きな子宮口ぐぼぐぼしてあげよっか♡」

「怯えた顔、可愛い：

これ気持ちよすぎるもんね？

おちんぼ様に子宮口ぐぼぐぼされると、

甘イキ止まらなくなっちゃって

身体おかしくなっちゃうもんね♡」

「うん、うん。じゃ、頭馬鹿になろっか♡：っ、はあ♡」

「ねえ、声大きすぎ、うるさい：♡

ちゃんと自分で抑えて？できないの？

じゃあ僕が首絞めてあげる：♡

ゆっくりぐぐって力入れてあげようね♡」

「あは、顔真っ赤になつてきた。

ん…？ねえ、首絞めてるだけなのに
雑魚まんこきゅんきゅん締め付けてきてるけど、
興奮しちゃった？

はあゝ本当にどうしようもないな♡
こんなんで気持ちよくなっちゃうなんてさ」

「俺は君を喜ばすためにやってるんじゃないんだよ、
わかつてる？♡」

「君がうるさいから、
しょうがないからやってやってるの。
それなのに、喜んでまんこ締め付けるなんて、
ド変態のクソ雑魚まんこだね♡」

「あつは♡また甘イキしちゃった？
腰へこへこうごかしちゃつて…
首絞められて恥ずかしいこと言われただけで
気持ちよくなっちゃったんだ♡かわいい♡」

「ほら、もうっと奥突いてあげる♡
体重掛けて奥潰してあげようね♡
あーあ♡おまんこ、どこもかしこも雑魚すぎて、
なにしても身体痙攣させて感じちやつてるのエロすぎ♡」

「よわよわまんこが頑張っておちんぼぎゅっぎゅって締め付けてくるの、
すっげえそそられる」

「っは、また締めつけて…
甘イキ止まらないね？
のスポもカリでえぐられてるから、
おまんこ全部気持ちよくてびくびく止まらないね♡」

「さっきからずっと甘イキしてて、
子宮もおちんぼに媚びてきて…♡っ♡」

「ふは、こんな可愛い反応されたら
いじめたくなるに決まってるでしょ♡」

「つは、もつともつと君のこと

雑魚雌に落としてあげたくなる…

ね、今度は尿道も開発しようか♡

君のおしっここの穴もちゃんと僕好みに馴けてあげようね♡

それに、いろんな玩具も使ってあげたいなあ♡♡」

「君が気に入りそうなの、たくさんあるよ♡♡

はは、まあそれはおいおい、でいいか♡

今日は君のおまんこに、

俺のちんぼの形覚えさせるのが優先だから、ねっ♡♡」

「こうやってたくさん君のナカを突いて、俺の形おまんこに覚えさせようね♡
おら、これが俺のちんぼですよ♡おまんこ媚びろっ♡」

「あー…やば♡♡

ちゃんときゆうきゆう吸い付いてくるの気持ちよすぎ…♡♡

ご主人様の形覚えられて偉いね♡

ご褒美にもっと激しくピストンしてあげよう、ねっ♡♡」

「つは、気持ちいい？ん？イキそ？

ふは、本気アクメキメちゃうんだ♡♡

ほら、イーけ♡♡おちんぽでおまんこずぼずぼされて

戻ってこれなくなるくらい

ふっかいアクメキメろ♡♡イけっ♡♡」

「ははっ♡♡おほ声でアクメキメちゃった♡♡

あー…君のおまんこが吸い付いてくるのきもちよすぎっ♡

はあ、そろそろイきそ…♡♡

出すからちゃんと子宮で飲めよっ♡」

「いったばっか？

知ってるよ♡いったばかりの君のおまんこに精子出すっ♡♡
俺の子孕め♡♡っ、出すよ♡♡お…♡♡♡♡はっ…♡♡」

「あー、はは♡きもちー…」

ふは、頭馬鹿になって何も分かんなくなってる顔、可愛すぎ…♡
やべ…きもち…」

「君もびくびくして身体震えてる♡

またイっちゃったんだ？♡かあわい…♡

ちんぽに従順なおまんこでえらいえらいね♡」

「はは、疲れちゃった？

すっげ眠そうな顔してる♡たくさんアクメきめちやったもんね♡

ん、あとはこっちでやっておくから…

そのまま、寝てていいよ♡」

「ああ、そうだ。起きたときで良いからさ、連絡先交換しよ？

今度はフォームじゃなくてさ、個人チャットで連絡しようだい」

【トラック5】

場所…シノのマンションの部屋

「いらっしやい。…久しぶり。

ふふ、久しぶり、って言っても会ったのついこの間だけど♡

おれが君に会いたくて、我慢できなくて…

すぐに約束取り付けちゃったもんね？♡来てくれてよかった…♡」

「ああ、そうだ。見た？

君の動画すっごく好評でたくさん拡散されてるの。

…って俺が言うまでもなかったかな♡顔あつか♡

恥ずかしいことされて、おまんこ沢山喜んじやってるところ、
いろんな人に見てもらえてうれしかったね♡」

「どうせ、ドマゾな君のことだから、

動画とコメント見ながらオナニーしたんでしょう？

クリトリス自分でつまんでしこしこしながら…

おまんこに指突っ込んでぐぼぐぼ…♡」

「でも、君の指は俺と違って細くて短いから…

満足できずにムラムラ止まらなくなっちゃって

寝ても覚めてもずっと俺のこと考えちゃってた…

違う？♡っはは、わっかりやすいなあ♡♡あー…可愛い…」

「だって君さつきから俺の口とか手とかちんぽとか…

物欲しそうな顔でじっと見つめてるから。

気づかないと思った？一回調教しただけで、

こんな俺好みの雌犬になっちゃって♡ほんと、躰け甲斐ある♡」

「今日も、ドマゾの君が沢山喜んでくれるように、君のこと壊してあげるね♡♡

それじゃあ、もう洋服要らないから全部脱いじやおうか。

ペットに服なんて贅沢でしょう？ん…よし♡

はは、君の身体、本当綺麗…♡

こら、隠すな。ご主人様には全部見せないとだめでしょう？

うん、えらいえらい♡」

「ね、見て…♡これ今日君に使おうと思って用意しておいたんだ♡んゝどれがいいかな♡んゝ…まずはこれしよっか。目隠しと手錠♡人ってさあ、視覚を封じられると他の感覚が過敏になっちゃうんだ。今から何されるのかって予想がつかないから…いつもよりもっと気持ちよくなっちゃうの。」

「はい、真っ暗♡なんにも見えなくなっちゃったね。

それと…後ろ手で手錠を付けば…あーあ♡

身動きも取れなくなっちゃった♡

これで俺に何されても…君はなんにもできずに
アクメキメ続けることになっちゃったな♡ふふ、頑張ろうね♡」

「そうそう、今日はやりたいことがあるから…
まずはそのための準備しよっか♡」

「ふふ、何されるのかわからなくて怖い？大丈夫♡
死ぬほど気持ちいいことだから♡♡」

「まずは…こうやってローションをたっぷりまぶして…っと」

うん、これでよし。

はは、なか、ローションでひたひたになっちゃった♡
君、こんなのされたらひとたまりもないかもね♡♡」

「ん、何されるのかわからなくて怖いね♡
それじゃ、たくさん扱かれていっぱいアクメキめようね♡
おーら♡クリちゃんにゅこにゅこ♡♡♡」

「っはは、声エッグ♡少しだけ大きくなってたクリちゃん
オナホでごちゅごちゅされるの気持ちいいでちゅね♡
っは、きったねえ喘ぎ声♡♡興奮する♡」

「つつよい刺激で無理矢理勃起させられるのキツイね♡♡気持ちいいね♡
ん？まだ始めたばかりなんだから…
そんなアヘアへしてないでもっと気張れ♡」

「はは、よっわゝ♡君のここ、この前よりもっと雑魚くなっちゃたんだ♡♡
よわよわクリちゃん、もっと近くで撮影しようねゝ♡

♡ん、撮ってるよ？あ…？やだ？

本当は撮られたがってるのによく言うよ。」

「おまんこパクパク震わせて撮ってるだけ気持ちよくなってる雑魚まんこ、撮ってくれてありがとう、でしょう？」

「ん。そりやそうでしょ。だって強くしてるんだもん♡

無数のひだひだにクリトリス虐められて気持ちいいねゝ♡

うわ、喘ぎ声きったな♡ん、もうイクの？だあめ♡♡」

「今日はやることあるって言ったでしょう？

ん、ほらこれ♡♡…って君今見えないんだった♡

今日は…これで君の大事なところを開発してあげる♡

こら、暴れるな。暴れると傷つくよ。。

そう、えらい…♡それじゃ、挿れるから大人しくしてて？」

「つぶふ、入った♡ここに挿れられると思ってなかった？♡

うん。そ、ここおしっこの穴♡♡

これは尿道ブジーって言うって…

おしっこの穴からクリトリスの気持ちいいところ刺激できるんだよ♡♡」

「だからほら、こうやってゆっくり動かすと…

はは♡気持ちいいでしょ♡

っは。おほ、ってすっげえ声♡こっちに合わせて…

ナカも一緒に弄ってあげようね。」

「まずは一本入れて…

こっちもごちゅごちゅ♡♡って俺の太くい指で叩いてあげる。

っはは、きもちいいなゝ

雑魚まんこも雑魚クリトリスももれなく全部気持ちいいね♡」

「あはは、君…ブジー揺らして中叩くたびにびくんびくんって跳ねてて魚みたい。
尿道ブジーごちゅごちゅかき回しながら

おまんこもぐっちやぐちやに捏ねてやろうなゝ♡」

「はー…だらしく舌出して…本当エツロ♡君って本当に男を煽る天才だね…♡
ほら、指増やしてあげるから…っおまんこでドスケベアクメキメろ…っ♡
イけ…っ♡イけっ♡♡♡」

「はは、腰突き上げながらアクメキメちゃった♡
尿道に刺さってるブジーがゆらゆら震えてるの、無様でかわい♡
ああ、そうだ。今日はこれ差しながらちんぽ挿れよっか♡♡
尿道ぬこぬこされながら、おまんこばちゅばちゅ突かれるの。
気持ちよくて頭おかしくなっちゃうね？♡」

「ん…でも、直ぐ漏らしちゃうきみにはぴったりだと思うな♡
ね、そう思わない？♡気持ちも良くて、おもらしも防げて一石二鳥♡
ねえ、ちよっと。聞いてるんだからはあはあ言ってないでちゃんと返事して？」

「…っはは、お尻叩いただけできゅうん、って。わんちゃんみたい♡
ああそうだ。今日はこのままワンちゃんみたいにバックでエッチしようか。
後ろから、沢山突いてあげる♡」

「ほら、四つん這いになって？」

「うん、そう。」

「ちゃんとすること聞けて、お利口なワンちゃんだね♡
は…何も見えなくて不安そうなの顔見ると、
興奮、す…るっ♡♡♡」

「っぐっ♡締め付けえっぐ…♡
はは、急に奥まで挿れられて、イっちゃったんだ♡
あ…イキまんこ気持ち…
ん？君が勝手にアクメキメただけなのになんで俺が待たなきゃいけないの♡♡
ほら、ブジー弄ってクリトリス潰してあげるから頑張れ♡♡頑張れ♡♡」

「っはは、ナカのうねりすっげ…足痙攣させちゃって…
ふっかいアクメキメれてうれしいね♡
このまま奥ごちゅごちゅ突いてあげるから、
もう戻ってこれないくらいまで深いところまで一緒にイこうね。」

「片手でゆっくりブジー揺すりながら、奥の気持ちいいところぐり♡♡ぐり♡♡ってつぶしてあげる。

あー…イきそうだね♡今イってるのに、また大きいアクメ、来ちゃうね♡♡イク…イク…イク…イク…イク…けっ♡♡」

「っははは♡雑魚♡♡雑魚すぎ♡♡

ね、もう一回イこっか♡♡

こうやって子宮どちゅ…どちゅ…ってゆっくり突かれて、

尿道ブジーゆっくり抜いて…」

「ギリギリのところでもたまぬぷぷ…って沈めてあげると…

今イったばかりなのにお腹きゅんきゅんって熱くなってきたやうね…

きもちい…♡きもちい…♡きもちい…♡きもちいい…、イけ♡♡」

「つく、はは♡♡っはは♡♡あーあ。

俺がイけって言ったらアクメキメるクソ雑魚雌まんこ、完成♡♡

これから街中でも、電車の中でも俺がイけって言ったら

アクメきめちゃうね♡♡

あーあ人生終わっちゃった♡」

「ふふ、嬉しい？嬉しいよね？♡っは…いい子♡

ほら、もっと激しく突いてあげるから、

もっともっとアクメキメていいよ♡ブジーもたくさん動かしてあげる…っ♡」

「ん、ブジーきついのか…？そうだな。沢山アクメキメれたし、抜いてあげよっか。

そろそろ君の潮吹きアクメみたいだね♡

傷つかないようにゆっくり抜いてあげようか。

ん、ほら、あとちょっと頑張れ♡♡」

「なーんて♡♡すぐ抜いてあげるわけないでしょ？♡

簡単に信じちゃって、油断したまんこにブジーぶっさされて…無様だね♡♡

君がもっともっとアクメキメられたら抜いてあげるよ♡

ほら、大人しくブジー弄られながら雑にまんこ突かれてアクメキメろ♡♡

おら、イーけ♡イ♡けっ♡♡」

「っはは、ブジーの間からちよろろって潮漏れちゃった♡
ほんとえっろ…♡ブジーしたままでも潮吹きできたし、
もう一生抜かなくてもいいか♡♡
あっは♡その絶望した顔たまんね…♡
すっげえちんぽイライラする…っ♡」

「っふー…君が煽るから…っ♡ちんぽ止まらなくなっちゃった…♡
あー…俺のちんぽの先で子宮口ぶっ叩くのきもちー…♡
ふは、またイったの？
もうずっとびくびくしてていつアクメキメたかわからなくなっちゃったね？」

「はーっ、はー…あー…そろそろ俺も限界…っ♡
このまま、君の奥にザーメン出すよっ♡」

「っ、はー…ああ。君の雑魚雌ちんぽもそろそろザーメン出させてあげよっか♡
ほら、ぴゅっぴゅしろ♡♡」

「はは♡君の雑魚雌ちんぽ、
ザーメンちよろちよろってしか出せなくなっちゃったね♡♡
気持ちよくぴゅっぴゅっつてできないなんて、出来損ないのちんぽだね♡
あれ、でもそれでアクメキメてるの？
あーあ。どこまでも雑魚になっちゃったね？」

「ほら、しょうがないから俺の種付けで
っよっよおちんぽの見本見せてあげる…っ♡」

「…っふ、っ、は、っ♡っ、出す、出す、出す…っ♡
君のまんこにっ、俺の精子出すよ…っ♡♡
おら、っよっよちんぽの精子で孕め…♡♡孕め…っ♡」

「はー…っ♡はー…っ♡
っ、君がアクメキメまくって俺のちんぽ搾り取ってくるから…
射精止まんね…♡

あー…はは、ね、俺さ特定の相手作る気なかったんだけど…」

「君のこと、離してあげられなさそ…っ
生涯、俺の可愛いペットでいてよ♡♡
」♡